

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第6号 水 稲

発行日 平成20年 8月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

「いわてアグリベンチャーネット」は9月1日からリニューアル！
新しいアドレスは「<http://i-agri.net>」(8月中は<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>)

県内の水稲は平年並みに出穂期を迎えましたが、出穂期以降の低温・少照経過により登熟がやや停滞したこともあり、刈り取り時期は平年よりやや遅くなる予想です。

登熟を低下させないための水管理を行うとともに、適期刈り取りに向けた準備を進めましょう。

登熟を低下させない水管理

落水の目安：排水が悪く地下水位が高い水田(出穂後30日～35日)

排水の良い水田(出穂後35日～40日)

適期刈り取りの励行

刈取適期の判定は黄化率で80～90%を目安。

籾水分(20～25%)を確認し、晴れ間をぬってすみやかに収穫

仕上げ水分は15%以下

籾の乾燥では二段乾燥を心がけ、玄米水分を15%に仕上げる

異品種混入防止

収穫前にコンバインや乾燥・調製施設等の清掃・点検で、異品種混入防止

1 生育状況

県内の水稲は、県全体で平年並みの8月8日、8月上旬から低温傾向が続いた県北部では平年よりやや遅い8月10日に出穂盛期を迎えました。

出穂期以降は低温・少照傾向が続いたこともあり、登熟はやや緩慢となっており、現在は概ね乳熟期から糊熟初期となっています。

表1 水稲の地帯別出穂時期

各農業改良普及センター調べ

地帯名	本年(月/日)			平年(月/日)			平年差(日)			前年(月/日)		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	8/3	8/8	8/12	8/3	8/7	8/11	0	1	1	8/3	8/7	8/11
北上川下流	8/5	8/8	8/11	8/4	8/8	8/11	1	0	0	8/5	8/8	8/11
東 部	8/6	8/10	8/14	8/5	8/9	8/13	1	1	1	8/5	8/8	8/12
北 部	8/8	8/10	8/14	8/3	8/7	8/11	5	3	3	8/4	8/8	8/12
県 全 体	8/5	8/8	8/12	8/4	8/7	8/11	1	1	1	8/4	8/8	8/11

注) 1, 平年値は平成9年～19年(除15年)の10か年の平均値。

2, 始期、盛期、終期は各々地帯で概ね10%、50%、90%の水田が出穂期となった日。

2 登熟を低下させない水管理

登熟期間の水管理は食味、品質及び収量に大きく影響します。

早すぎる落水は収量のみならず品質を落とす原因になりますので、根の活力を維持するため間断かんがいをを行い、田面が湿っている程度の水分を保つような水管理を実施してください。

落水時期は、以下を目安に実施してください。

排水が悪く地下水位が高い水田・・・出穂30～35日頃

排水のよい水田・・・出穂35～40日頃

3 適期刈り取りの励行

刈り取り適期を予測するには出穂期からの日平均気温の積算による方法があります。品種ごとに刈り取り適期の目安となる積算気温が定められていますので下表を参考にしてください。

本年の各地域における出穂始期から日平均積算気温950に到達する日は9月17日～28日、出穂盛期から日平均積算気温が950に到達する日は9月25日～10月2日で、県全体の刈り取り適期は平年よりやや遅い9月20日頃(平年：9月17日)から始まると見込まれます(図1)。

地域毎に計画的な刈り取りを行うための準備を進めましょう。

表2 主要品種の積算気温による刈り取り適期の目安

品種名	刈り取り適期の積算気温
ひとめぼれ	900～1,050
どんぴしゃり	950～1,050
あきたこまち	950～1,100
かけはし	950～1,050
いわてっこ	950～1,050
ササニシキ	1,000～1,050
ヒメノモチ	950～1,050
もち美人	950～1,050

刈り取り適期の判断

登熟積算気温が950に近づいてきたら、
 籾の黄化割合を随時チェックし、
 籾の黄化割合が80～90%となったら刈り取りを行ってください。

刈り取り適期判断等の留意点

積算気温は目安にとどめる

積算気温による方法は栽培法や日照時間によりズレが生じる場合もあるので、最終的には、籾の黄化割合(80～90%が黄色で、穂基部の1割程度が緑色)で判断するのを基本としてください。

籾水分の確認

コンバイン収穫では、作業開始前に水分計を用いて籾の水分状態が20～25%にあることを確認しましょう。

水田内で出穂のばらつきが大きい場合

1枚の圃場においても出穂のばらつきが見られます。水口などで登熟が大幅に遅れているような場所は、刈り分けして品質低下を避けてください。

倒伏した場合

台風や大雨等により倒伏した場合は刈り分けを行い、青未熟粒等の混入を避けてください。

テスト初すりによる品質チェック

着色粒は出穂後の日平均積算気温が750 頃から出始めることから、随時テスト初すりを行い、刈取適期を判定してください。

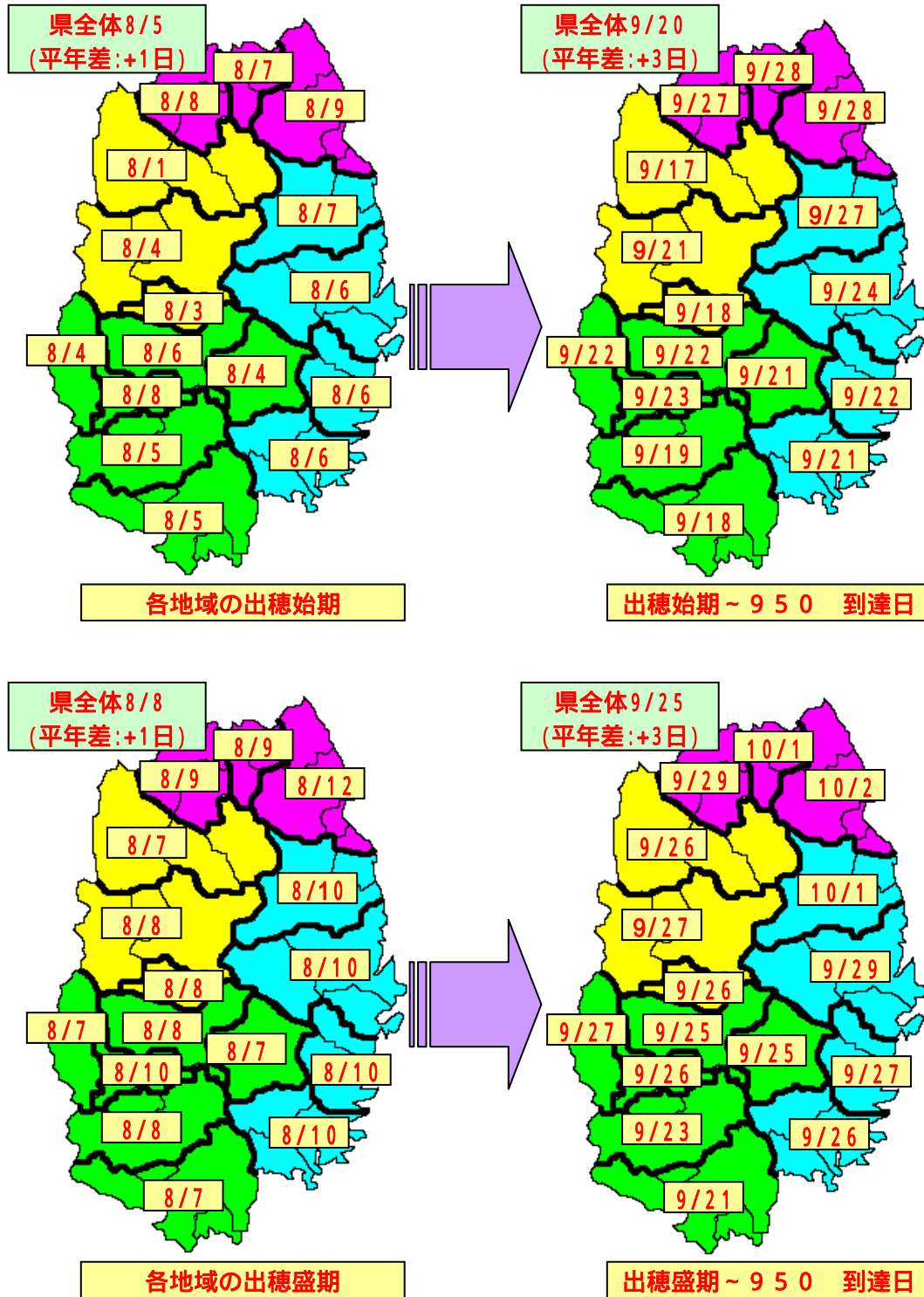


図1 各地域における出穂始期および盛期から日平均積算気温950 到達日の予測
各地域の代表アメダス地点の日平均気温の積算(8/27までは実測値、それ以降は準平年値を使用)

4 乾燥・調製の留意点 **仕上げ水分は15.0%以下を徹底！！**

(1) 胴割れ粒の発生防止

毎時乾減率(1時間当りの水分低下)を0.8%以下とし、送風温度に十分に注意してください。急激な乾燥を避け、また、過乾燥にならないよう注意が必要です。

水分のバラつきが大きい場合は、水分測定をこまめに行い、籾水分18%の時に一旦乾燥機をとめて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して籾水分の均質化を図ります(二段乾燥)。

自然乾燥においては、稲束の詰め過ぎに注意し、掛け替えを行うとともに、乾燥期間は2週間以内としてください。

(2) 籾すり時の肌ずれの防止

玄米水分15.0%以下の適正水分で籾すりを行います。(肌ずれ米の防止)

ゴムロールのすき間は、籾の厚さの約1/2(0.5~1.2mm)が標準です。

脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

(3) ライスグレーダー

出荷製品となる玄米は、LL(1.9mm)の篩目使用を基本とし、整粒歩合80%以上となるよう努めましょう。

5 異品種混入の防止

現在、全国的に異品種の混入が問題となっており、DNAの解析により米一粒からでも品種の判定ができるようになってきました。

異品種の混入が発生した場合には、品種名の表示ができなくなり、そのまま米を出荷すると、JAS法表示違反となるばかりか、産地全体のイメージを損ねることになります。

このような事態を回避し産地の信頼を確保するため、異品種混入を防ぐ管理に心掛けましょう。

特に、コンバイン、運搬機、乾燥機や籾摺機など収穫・乾燥・調製機械や施設内には、前年に収穫した籾等が残留している可能性があります。収穫が始まるまでにこれらの機械や施設の点検・清掃を行い、異品種の混入を未然に防止してください。

農作物技術情報第7号は9月25日(木)発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づき作成しております。
発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
「気をつけて」朝のひと声で 初心忘れず ゆとりの仕事